



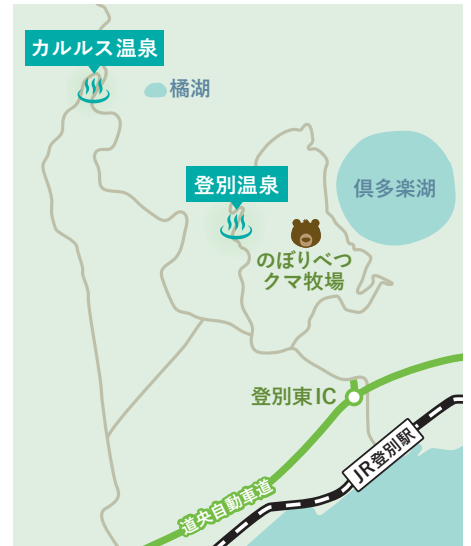
ココロとカラダが温まる
温泉文化祭と週末マーケット

カルルス温泉文化祭
& LOPPIS2025

カルス温泉について

北海道登別市カルルス町にあるカルルス温泉は、登別温泉開場から約40年後の1899年に温泉場として開けられました。開祖・日野久橘^{きゅうきつ}は温泉の成分を調べ「登別温泉と異なる泉質と効能」という結果を得てから開発に乗り出します。その泉質は登別温泉のような硫黄泉ではなく、含ナトリウム(カルシウム)塩化物・炭酸水素塩・硫酸塩泉の単純泉。カルルス・バード(現

在はチェコのカルロヴィ・ヴァリ)の温泉成分と似ていたことから、カルルスと名付けられました。時代が変わり温泉地の観光化が進んでも、あえて歓楽街を作らず、森林伐採を禁じるなど、環境面でも登別温泉との差別化を図ったと言われています。訪れる宿泊客の心身の健康増進を目指して整備を進め、1957年に北海道で初めて国民保養温泉地に指定されました。



カルス温泉文化祭実行委員会の発足



1964年から続く登別温泉「地獄まつり」

賑やかな商店街と大型旅館が立ち並ぶ登別温泉に対して、カルルス温泉はかつて7軒あった旅館が現在は3軒となりました。旅館の減少にともないカルルス町を離れる人も増え、年に一度開かれていたお祭りもなくなるなど、この地で市民同士が交流する機会は少なくなっています。温泉地が時代の変化、世界情勢に影響されてしまっても、地域

との繋がりはなくしてはいけないと、2023年、登別市の地域おこし協力隊が発起人となり、地元の有志たちとともにカルルス温泉文化祭実行委員会を立ち上げました。イベントを通してカルルス温泉と地域住民を再び結びつけること、湯治客になり得る継続的な関係性を築ける人(関係人口)や企業の創出を目指し活動しています。

カルス温泉文化祭&LOPPIS の開催

ロ ッ ピ ス

LOPPIS^{ロ ッ ピ ス}は年に数回、北海道内で開催され、衣食住に関わる約70店舗以上の店が集い、2日間で3,000人近くの集客がある人気のイベントです。ゆったりとした雰囲気カルルスにも適合するだろうと協同開催が実現しました。2023年の初開催では、LOPPISをきっかけに初めてカルルスを訪れたという登別市民も多く、地域住民との繋がりを作ることができたこ

とは最大の収穫でした。さらにLOPPIS出店者の中にも毎年参加したいという事業者が現れ、関係人口創出の可能性も見え始めています。今後はLOPPISの集客に頼ることなく継続していくことを目標に、第三回開催では文化祭の体験プログラムを充実させました。また毎年少しずつカルルス温泉共通のオリジナルグッズも制作しています。



第二回「カルルス温泉文化祭&LOPPIS2024」

入浴着の販売と 啓発ポスターの作成

すべての人が安心して入浴できる
温泉を目指し入浴着の販売と
オリジナルの啓発ポスターを作成。



▲入浴着はイベント期間のみ販売

カルルス温泉オリジナルグッズ

手拭い・タオル・Tシャツのほかに登別市の学芸員と
市内のイラストレーターによるカルルスBOOKも完成。



▲カルルスを舞台にしたオリジナルストーリーと歴史コラム



カルルス温泉オリジナルのプロダクト

「第三回 カルルス温泉文化祭 & LOPPIS 2025」で 実施した体験プログラム

PROGRAM

1

地獄経由極楽行き 「温泉カルチャーツアー」

参加料：2,000 円



2024 年、カルルス唯一の公共交通機関であった登別温泉からのバスが廃線となった。登別市全面協力のもと、市バスを利用したバスツアーを企画。登別市学芸員の案内で火山、温泉にまつわる場所を巡り、要所ごとに市民ガイドが登場。企画から運営まで札幌のツアー会社と協力し実施した。

PROGRAM

2

カルルス宴会 「ジャズと民謡」

参加料：4,000 円



2024 年春に試験的に実施した音楽会を「第三回カルルス温泉文化祭 & LOPPIS 2025」で同時開催した。その昔、共同浴場が主流だった時代は浴場の二階が宴会場となっており夜な夜な演芸大会が開かれていたという話をヒントに企画。カルルスで一番古くからある「鈴木旅館」の宴会場で開催した。

PROGRAM

3

「カルルス チェアリング」

無料



カルルス温泉には「溪楓園」という唯一の公園がある。川沿いの静かな公園だが、ゆっくりと腰をかけるような椅子がなく、宿泊客もめったに利用していなかった。そこで肘掛け付きのアウトドアチェアを無料で貸し出すサービス「カルルスチェアリング」を実施。2 日間で約 100 人の利用があった。

野趣あふれる露天風呂「橋の湯」
開場当時は川床から温泉が湧き出ていた



大正10年頃〔1921〕

登別市郷土資料館所蔵 @JAPAN SEARCH

第三回カルルス温泉文化祭で展示したテントサウナ。
水風呂にはカルルスの冷泉を利用した。



photo : nakajima mitsuyuki

カルルス温泉開場100年となった1999年、登別の広報誌はカルルス特集となり、温泉の歴史と当時の旅館オーナー6人による対談が掲載されていました。

湯治文化が失われていく中で未来に不安を抱えつつも「これからは一日でも湯治。

この環境を活かして新しい湯治を提案しよう」という前向きな内容でした。

湯治の形は変わっても、カルルスには良質な温泉と樹木から放出されるフィトンチッド、川からのマイナスイオンで溢れています。

わたしたちがカルルス温泉文化祭で実現したいことは、この素晴らしい温泉と環境をみんなで分かち合うことです。

地域住民同士、地域住民とイベント関係者、イベント関係者と湯治客、様々な関係性の中でカルルスの豊かさが共有され、そこから生まれる活力でこの場所を満たしていきたいと考えています。

人と温泉地、どちらも元気になる、それがわたしたちの目指す「新・湯治」です。

カルルス温泉文化祭が考える
これからの湯治

第四回 カルルス温泉文化祭 & LOPPIS 2026 2026.10.3^[Sat.] - 10.4^[Sun.] 開催予定!

会場 **カルルス温泉街**
(北海道登別市カルルス町)

入場料 **500円** (・小学生以下無料
・カルルス温泉日帰り入浴半額券付)
※一部体験プログラムは別途参加料あり

同時
開催

インテリアとカフェの週末マーケット

「LOPPIS」

カルルス
温泉
文化祭

公式WEB▶



主催・共催 カルルス温泉文化祭実行委員会・カルルス温泉旅館組合・LOPPIS

お問合せ

カルルス温泉文化祭実行委員会・新村的りこ
✉ doorsnoboribetsu@gmail.com